



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第三四七号〕

小満 しょうまん

五月二十一日

五月の花

5月の季語に、聖五月せいごがつがあります。カトリック教では5月を聖母・マリアの月、「聖母月」と呼ぶことから、この名が付きましました。日本でも、若葉がみずみずしい一年で最も美しい季節で、聖五月の季語が定着したようです。今年の5月は、旅行もままなりませんし、近くで花を愛でました。藤の花、牡丹、芍薬しやくやく、石楠花いしかんげ、大手鞠おほでまり、躑躅つづじ、そして薔薇…。どの花も今年は少々早く見ごろを迎えていました。

イギリスのことわざで、「3月の風、4月の雨が、5月の花を連れてくる」というのを知りました。日本ではこれに2月を加えて、「2月の雪、3月の風、4月の雨が美しい5月をつくる」というようです。2月に降った雪が溶け、地面に浸みて凍った土を軟らかくし、生物や植物を目覚めさせるような春一番、二番の強い風が吹き渡り、芽吹きを促す雨が降ります。こうした雨や風によって、緑が萌え、花が咲き、みずみずしい5月という季節を迎えるのでしょうか。春から初夏にかけての変化を見事に言い表しています。

人は花や緑を見ると、血圧が下がったり、自然免疫が活性化したりすることが研究によって証明されているようです。研究者によると、これは人類が歴史上700万年もの間森の中で暮らしてきたため、そのDNAを持ち続けているからといえます。私たちは疲れを感じると、外に出てリラックスしようとしませんが、これも身体が反応してバランスを整えようとするからなのです。この5月はたっぷり、新緑と花を見て、リフレッシュしたいものです。神宮会館の神宮ばら園は今年も色とりどりの薔薇の花であふれていました。やさしいピンク色のプリンセス・アイコ、シックな赤紫のマリア・カラスなど、名前とともに花を眺めるのも楽しい花見です。まさしく5月の花を代表する鮮やかさです。まもなく紫陽花が色を着け始めることでしょう。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○『夏の風物市』

うちわや風鈴、手ぬぐいなど夏を快適に楽しく過ごす昔ながらの暮らしの道具が揃います。

日 時／5月13日(木)～6月6日(日) 9:30～17:30

場 所／赤福別店舗

お問い合わせ／おかげ横丁総合案内「おみやげや」電話0596-23-8838

五十鈴茶屋

○節気菓子

あおうめ

青梅

刻み梅入りの白餡を外郎生地ういらうで包みました。爽やかな青梅の香りが嬉しい、五月雨の便りです。

いせなでしこ

伊勢撫子

薄紅色の羊羹をきんとんに仕立て、今が盛りと咲く、優雅な伊勢撫子に見立てました。

ばな

どんど花

かつて『紫が雲居にたなびく』とも讃えられた斎宮の花菖蒲を、三色の練りきりで表現しました。

五十鈴塾

○『日本書紀千三百年を祝して～日本書紀を巡る世界その1～』

2020年は日本書紀が完成して千三百年の記念の年でありました。

各地でお祝いの行事が行われるはずでしたが、新型コロナウイルスのため、多くの行事が中止や規模縮小という残念な年となってしまいました。

神話に始まり日本国の誕生から持統天皇までを記録した書物で、古事記と二つ合わせて「記紀」とも呼ばれます。

古代史の基本史料であり、「六国史」と呼ばれる官撰の歴史書の第一番目でありながら、古事記より「読んだことない」と言う人が多いのもまた事実。

それには戦後の微妙な歴史観も影響しているものと思われます。

日本書紀をとりまく世界をお話ししながら、本文を読むことも少しできたらなと思っております。

と き／5月27日(木) 18:30～20:00

講 師／山中 一孝(豆腐庵山中代表取締役)

参加費／一般1,350円 会員850円

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となる可能性があります。